ニコライ・オジャイノフ ピアノ・リサイタル

ール・ショパン・プログラム

アンダンテ・スピアナート 作品 22 即興曲 第2番 嬰ヘ長調 作品 36 夜想曲 第8番 変ニ長調 作品 27-2 子守唄 変ニ長調 作品 57 練習曲 第7番 嬰ハ短調 作品 25-7 練習曲 第2番 ヘ短調 作品 25-2 練習曲 第3番 ヘ長調 作品 25-3 バラード 第2番 ヘ長調 作品 38

2020.8/27(木) 19時開演(18時半開場) 渋谷区文化総合センター大和田 さくらホール

全席指定S¥5,500/A¥4,500(稅込)

〈チケット取扱い〉

チケット ひあ http://t.pia.jp 0570-02-9999[Pコード:182-897]

イープラス https://eplus.jp/

ローソンチケット https://l-tike.com/ 0570-000-407(オペレーター対応10-18時) ローソン・ミニストップ店頭 Loppi [Lコード:31081]

※曲目・曲順などやむを得ず変更させていただく場合がございます。※公演中止・延期を除く、予約後のチケットの変更・取消、ならびに購入後のチケットの変更・払戻はできません。※未就学児の入場はお断りしております。※車椅子席をご希望の方は、オフィス諷雅(support@officefuga.jp)までお問い合わせください。

主催:オフィス諷雅 お問い合わせ:オフィス諷雅 support@officefuga.jp

一般発売 **4/11**(±) 華麗なる大円舞曲 変ホ長調 作品18 マズルカ 第36番 イ短調 作品59-1 マズルカ 第37番 変イ長調 作品59-2 マズルカ 第38番 嬰ヘ短調 作品59-3 ワルツ 第6番 変ニ長調 作品64-1 ワルツ 第7番 嬰ハ短調 作品64-2 ワルツ 第8番 変イ長調 作品64-3 前奏曲 第7番 イ長調 作品28-7 前奏曲 第8番 嬰ヘ短調 作品28-8 バラード 第4番 ヘ短調 作品52

「ショパン 最後のリサイタル」

1848年。パリの街並みにもうひとつのフランス革命が訪れます。 ショパンはすでに、20年以上にも渡る病魔との闘いで疲れ果 てていました。

貴族である友人たちはみな、パリから離れてしまいました。ショパンはただひとり、収入のあてもないまま、革命のパリにいたのです。あらゆる時代における偉大な詩人の一人であるショパンは、少しずつ、しかし確実に最期の公演への準備を進めていました。そして最後の公演は英国で行われました。霧雨が降り続く英国が、ショパンにとって聴衆と最期に会話を交わす場となったのです。

ショパンは当時、自ら望む作品を弾けるような身体的状態ではありませんでした。そこで、マズルカ、ワルツ、ノクターンといった小品を弾くことにしたのです。何年にも渡って音楽に注いできた心の告白は、特別で神聖な意味を持つこととなったのです。

私がここに表したプログラムは、ショパンが1848年10月4日に エディンバラで弾いたのをベースに選曲いたしました。ソロ・リサイ タルとしてはおそらくショパンにとって唯一のものと思われます。と いうのも、彼の演奏会はいつも声楽曲による間奏曲を伴ってい たからです。 後のショパンのロンドンへの登場は、ポーランドが独立を求めて戦ったことに捧げられたものであります。それはコンサートではなく、小さな部屋で行われた舞踏会でした。ショパンは自らの曲を数曲弾きましたが、楽しいダンスを終え、息をつく参加者に何度も妨げられてしまいました。参加者の殆どが、そこにショパンがいたことに気づいていなかったのです。

ショパンがエディンバラで弾いた正確な内容についての議論は今日にまで至ります。私は、ショパンがこのリサイタルに先立って弾いていたものを調べ上げたところ、何を弾いていたのかが明らかになってきました。

イングランドでの演奏会でショパンが毎回弾いていたのは 子守唄でした。この作品の揺れ動く、シンプルな、それでいて深 く心に刻まれる詩的なメロディーは、まるで告別の挨拶のように 聞こえます。薄れゆく意識が彷徨い、若年期に作曲した音楽か ら、後期のマスターピースへと移りゆく、というショパンをたどるこ とができます。幸せだった青年期から、後期のワルツ、後期のマ ズルカの現実へと引き戻されてしまいます。

(ニコライ・ホジャイノフ)

ニコライ・ホジャイノフ(ピアノ) Nikolay Khozyainov, piano

2010年10月に行われた、第16回ショパン・コンクール(ワルシャワ)での最年少ファイナリストとなった折には批評家たちから、「極めて大きなスケールの素晴らしいアーティスト。偉大なるロシアン・ピアニズムの系譜を受け継ぐものとして、ホジャイノフはショパンの感受性に最も近い。その演奏には魂が込められていた。」と絶賛された。他にも、2012年、ダブリン国際ピアノ・コンクール優勝、同年シドニー国際ピアノ・コンクールにおいて2位入賞および、シドニー交響楽団の楽員が選出する最優秀協奏曲賞をはじめ、最優秀リスト演奏賞、最優秀シューベルト演奏賞、最優秀ヴィルトゥオーゾ研究賞、最年少ファイナリストを同時に受賞するなど、その受賞歴は枚挙にいとまがない。

これまで、フィルハーモニア管弦楽団、東京交響楽団、シドニー交響楽団、ワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団、ロシア国立交響楽団、読売日本交響楽団、アイルランドRTEナショナル交響楽団などを含む多数のオーケストラと共演。2018年1月にはサントリーホールで行われた公演に、上皇明仁陛下、上皇后美智子陛下が臨席された。2013年8月、NHK Eテレ「らららクラシック」に出演。



渋谷区文化総合センター大和田 さくらホール

●徒歩でお越しの方

JR渋谷駅西口から徒歩5分

●バスでお越しの方

大和田シャトルバス (ハチ公口-文化総合センター大和田) ハチ公バス

(夕やけこやけルート)

※どちらもバス停「渋谷駅ハチ公口」から乗車、 次のバス停「文化総合センター大和田」下車。

●お車でお越しのお客様へ

文化総合センター大和田には専用駐車場はございません。お車でお越しのお客様は周辺の一般コインパーキングをご利用ください。

